

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目4問で100分  
(学部・方式により異なる)

## 解答形式

マーク, 記述, 計算

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

理論, 無機, 有機とバランスのよく出題されている。

## その他トピックス

今年も, 有機化合物の構造式を書く問題が出題されている。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[I]	マーク 記述 計算	周期表 元素の性質 気体の製法 金属の性質と 反応 溶解度積	化学	(i)周期表と元素の性質, $\text{Cl}_2$ の製法, $\text{Fe}^{2+}$ と $\text{Fe}^{3+}$ の検出反応 (ii)Al の製錬と反応の内容である。結晶も含まれている。 (iii) $\text{Mg}(\text{OH})_2$ の溶解度積の内容である。 (4),(6) 計算の仕方によって, 解答が変わる。	標準
[II]	マーク 記述 計算	気体 蒸気圧 理想気体と実在気体 混合気体 触媒	化学	(i)沸点と蒸気圧の関係, 気液平衡の計算の内容である。 (ii)理想気体と実在気体の計算問題を含めた内容である。 (iii)触媒の働き, 混合気体の計算問題の内容である。	標準
[III]	マーク 記述 計算	炭化水素の性質と反応 芳香族化合物 混合物の分離	化学	(i)アルケン, アルキンの反応と性質を中心にアルケンの過マンガン酸カリウム酸化も含まれている内容である。 (ii)芳香族化合物(芳香族エステル)の構造決定の内容である。 (iii)混合物の分離の内容である。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

1. 理論・無機・有機をまんべんなく学習しておくこと。
2. 教科書の内容を十分整理してマスターしておくこと。
3. 化学用語や定義を正確に理解しておくこと。
4. 教科書傍用問題集レベルの問題演習を数多く行っておくこと。